

# 舞台芸術公園の舞台芸術のテーマパークとしての可能性

静岡英和学院大学 人間社会学部 毛利ゼミ（舞台芸術班）

指導教員：准教授 毛利康秀

参加学生：土井達稀、中林宏太、村松優、植木杏、押尾克海、KEVIN  
YULIANTO CHANDRA NG、千葉実規斗、林朋生、福田宗  
英、山崎淳也

## 1. 要約

- (1) 公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）の活動拠点の一つである舞台芸術公園について、フィールドワークを行って現状を把握するとともに、聞き取り調査やアンケート調査の結果を合わせ、舞台芸術のテーマパークとしての発展可能性についての検討を行った。
- (2) 舞台芸術公園は静岡市駿河区日本平の中腹に位置し、稽古場等の施設は無料で利用することが出来るが、SPAC のソフト事業としての利用に限られるなど、現状においては自由な利用に制約のあることが分かった。また公園内は高低差が激しく、バリアフリー化も進んでいないことが明らかになった。
- (3) 榎田堂の公演を鑑賞しに来た方（来場者）にアンケートを行ったところ、舞台芸術の鑑賞が好きで何度も訪れる常連の方が多く、舞台芸術を体験できるイベント等の開催を希望する割合が多いことが判明した。
- (4) 静岡英和学院大学の学生にアンケートを行ったところ、公園の存在自体を知らない、聞いたことがあっても場所が分からない割合が多数を占めており、舞台芸術に関する常設展示を希望する割合が多いことが判明した。
- (5) 来場者、日本人学生、留学生が抱いている興味・関心についてコレスポネンズ分析を行うと、アウトドア的—インドア的な軸、ハイカルチャー的—サブカルチャー的と判断出来る分析軸が抽出され、舞台芸術の受容層（来場者）はアウトドア的・ハイカルチャー的な趣味を多く嗜む傾向が見いだされた。ここから、日本人学生は大道芸、映画鑑賞、音楽鑑賞を好む層に、留学生は美術館巡りやカメラ・写真を好む層にアピールすることが、舞台芸術の受容拡大に効果的ではないか、とする仮説が浮上した。
- (6) これらのデータを合わせて検討した結果、児童・生徒・学生の校外学習の受け入れ拡大や、演劇サークル・ダンスサークル等の稽古場としての開放を進め、舞台芸術に関するイベント等の開催を増やすことで認知機会と利用機会の拡大を目指していくのはどうか、さらに予算の許す限り園内のバリアフリー化や駐車場の拡大を実現させていくのはどうか、といった提言を取りまとめた。

## 2. 研究の目的

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）は、国内外の芸術家や劇団を招聘しての公演等を行いながら若手芸術家の育成も行っている公益法人である。SPACが活動拠点としている舞台芸術公園は、静岡市駿河区日本平の中腹に位置し、舞台創造のための機能を備えた施設であると同時に、自然公園として季節の自然を楽しむ場所にもなっている。

静岡県は「演劇の都」構想を掲げ、舞台芸術を核とした地域活性化や交流人口の増加を推進していることや、近年、日本平山頂の再開発などで日本平全域の交通量が増え、注目度も高まりつつあることから、あらためて舞台芸術公園が舞台芸術に関するテーマパーク的な存在としてどのような発展可能性が考えられるかについて検討することとした。

## 3. 研究の内容

毛利ゼミナールの中から舞台芸術公園を主に担当する研究班を編成して、フィールドワークならびに聞き取り調査・アンケート調査等の活動を行った。概ね、以下のようなスケジュールで進行した。

- ・9月23日 静岡県舞台芸術センター訪問、担当者に挨拶
- ・9～10月 舞台芸術に関する基本知識の学習ならびにアンケート調査の設計

- ・10月24日 舞台芸術公園のフィールドワーク (図1・2参照)、担当者への聴き取り (図3参照)、公演の参加者へのアンケート調査の実施
  - ・10月30日 静岡県舞台芸術センター訪問、アンケート調査票の引き取り、担当者への聴き取り
  - ・11～12月 フィールドワーク結果の報告とディスカッション (図4参照)、アンケートデータの入力・学生アンケートの設計
  - ・12月～ 学生アンケートの実施
  - ・12月20日 静岡市文化会館のフィールドワーク、舞台「妖怪の国の与太郎」を観劇 (図5参照)、担当者への聴き取り
- 12月～1月 アンケートデータの集計・分析作業

## 4. 研究の成果

### (1) 当初の計画

舞台芸術公園へのフィールドワークならびに調査活動を行う。SPACの方への聴き取り調査を行って、実状を把握する。そして、公演を鑑賞される方、学生を対象としたアンケート調査を行い (状況が許せば一般市民の方へもアンケート調査を行う)、舞台芸術公園への認知度や意識についての分析を行う。舞台芸術をより深く理解するために、実際に舞台芸術公園で開催される公演を鑑賞する。これらのデータならびに観劇体験を踏まえながら、舞台芸術公園の発展可能性についての検討を行い、実現可能と考えられる活性化策の提案を行う。

### (2) 実際の内容 (A:ほぼ予定通り)

舞台芸術公園での公演鑑賞は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の影響によりチケットの発売枚数が制限されたため確保することが出来ず、フィールドワーク中の鑑賞が出来なかった。代わりに、静岡市文化会館で開催された公演を鑑賞して、舞台芸術への理解を深めた。余力があり、かつウィルスの流行が収束した場合は、一般市民の方へのアンケートを東静岡駅前で開催することを構想したが、実際には流行が収束しなかったために断念した。授業については、教室に集合する対面授業を基本としたが、Zoomによる遠隔授業も併用した。

### (3) 実績・成果と課題

静岡県舞台芸術公園は、21ヘクタールにも及ぶ広大な敷地面積を有し、野外劇場「有度」(400人収容)、屋内ホール「楯円堂」(100人収容)のほか、稽古場や宿泊施設が点在している。これまでに訪れた学生は誰もいなかったため、フィールドワークを行うことによって現地の様子を知るのに貴重な機会となった。自然の地形をそのまま活かしているため、実際に歩いてみると高低差が激しく、車椅子での移動は難しそうなこと、特に雨天時は困難が予想されることが分かった。



図1 舞台芸術公園のフィールドワークの様子



図2 舞台芸術公園のフィールドワークの様子



図3 舞台芸術公園での聴き取りの様子



図4 教室での討論 (対面/遠隔併用) の様子



図5 静岡市文化会館へのフィールドワークの様子

来場者アンケートは、2020年10月24日に舞台芸術公園で行われた公演「みつばち共和国」の参加者を対象に行い、有効回答20を得た。男性が8名(40.0%)、女性が12名(60.0%)、40代から60代が多数を占めた。舞台芸術公園へは自家用車で来た人が13名であり、訪問回数は3回以上来ている人が15名(75.0%)と4分の3を占めた。20~30回と回答した人が多く、多い人は100回近く来ていた。つまり、舞台芸術が好きで、公演があれば足を運ぶ常連の方が多いことを表している。

学生アンケートは、2020年12月に静岡英和学院大学の学生を対象として行い、有効回答139を得た。日本人学生が105名、留学生が32名、未回答が2名であった。舞台芸術公園を知っていた人は21名(15.1%)にとどまり、ほとんど知らなかった/初めて聞いたとする回答が78名

(56.1%)と過半数を占めた。場所が明確に分かる回答も22名(15.8%)で、どこにあるのか分からない回答が93名(66.9%)であり、行ったことがないとする回答は102名(73.4%)に達した。学生にとって、舞台芸術公園はよく分からない、縁遠い場所であることを示している。

舞台芸術公園と聞いて抱くイメージについて質問し、来場者、日本人学生、留学生に分けて集計すると表1のようになった。来場者は「舞台芸術を鑑賞できる所」「自然環境が豊か」の回答が多く、実際に訪れた体験がイメージに反映している。学生は訪れた経験のない割合が高いため、あまり具体的なイメージが浮かんでいない。舞台芸術公園に欲しいものについて質問すると表2のようになった。常連の来場者の方は「舞台芸術を体験できるイベントの開催」を希望するニーズが高かった。常設展示へのニーズも学生を中心に高かったが、まずは常連の方のニーズである、イベントの開催を増やすことが良いのではないかと考えられる。

来場者、日本人学生、留学生が抱いている興味・関心について質問し、コレスポネンス分析を行ってスコア散布図を作成すると図1のようになった。これによると、アウトドア的・インドア的な軸、ハイカルチャー的・サブカルチャー的と判断出来る分析軸が抽出され、来場者はアウトドア的・ハイカルチャー的な趣味を多く嗜む傾向が、日本人学生はサブカルチャー的、留学生はインドア的な趣味を好む傾向が

表1 舞台芸術公園のイメージ(複数回答可)

	来場者		日本人学生		留学生	
	人	%	人	%	人	%
舞台芸術を鑑賞できる場所	19	95.0%	78	56.1%	15	44.1%
舞台芸術が学べる場所	6	30.0%	43	30.9%	11	32.4%
舞台芸術が体験できる場所	6	30.0%	37	26.6%	10	29.4%
芸術家と会える場所	8	40.0%	11	7.9%	5	14.7%
舞台芸術の制作拠点	8	40.0%	13	9.4%	2	5.9%
若手芸術家を育成する拠点	9	45.0%	9	6.5%	2	5.9%
施設が充実しているイメージ	9	45.0%	12	8.6%	1	2.9%
施設がもてないイメージ	0	0.0%	10	7.2%	3	8.8%
創作意欲をかきたてる	6	30.0%	16	11.5%	2	5.9%
舞台芸術のテーマパーク	5	25.0%	16	11.5%	3	8.8%
自然環境が豊か	17	85.0%	37	26.6%	7	20.6%
にぎやかな雰囲気	0	0.0%	13	9.4%	4	11.8%
静かな雰囲気	9	45.0%	32	23.0%	9	26.5%
さびれた雰囲気	1	5.0%	4	2.9%	0	0.0%
有効に活用されている	4	20.0%	6	4.3%	4	11.8%
もっと活用の余地がある	8	40.0%	10	7.2%	2	5.9%
親しみやすい	9	45.0%	19	13.7%	6	17.6%
親しみにくい	2	10.0%	9	6.5%	3	8.8%
近い	5	25.0%	4	2.9%	2	5.9%
遠い	3	15.0%	19	13.7%	6	17.6%
交通が便利	2	10.0%	9	6.5%	6	17.6%
交通が不便	5	25.0%	14	10.1%	2	5.9%
イメージがわからない	1	5.0%	24	17.3%	3	8.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答計	142		445		108	
%は回答者nに対するもの	n=20		n=139		n=34	

表2 舞台芸術公園に欲しいもの(複数回答可)

	来場者		日本人学生		留学生	
	人	%	人	%	人	%
舞台芸術に関する常設展示	5	25.0%	78	56.1%	15	44.1%
その他の常設展示	1	5.0%	43	30.9%	11	32.4%
舞台芸術の体験イベントの開催	1	45.0%	37	26.6%	10	29.4%
その他のイベント等の開催	2	10.0%	11	7.9%	5	14.7%
園内のバリアフリーな交通手段	2	10.0%	13	9.4%	2	5.9%
売店・コンビニ等	5	25.0%	9	6.5%	2	5.9%
広い駐車場	1	5.0%	12	8.6%	1	2.9%
分からない	0	0.0%	10	7.2%	3	8.8%
その他	1	5.0%	16	11.5%	2	5.9%
回答計	26		229		51	
%は回答者nに対するもの	n=20		n=139		n=34	

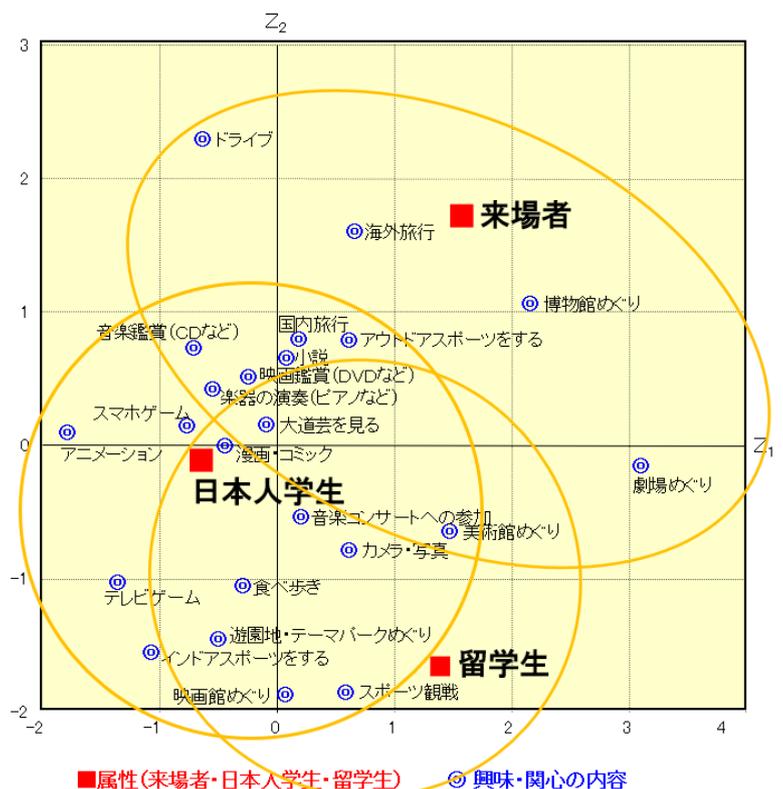


図1 来場者・日本人学生・留学生の興味・関心に関するスコア散布図

見いだされた。これらの位置関係に留意すると、日本人学生は大道芸、映画鑑賞、音楽鑑賞を好む層に、留学生は美術館巡りやカメラ・写真を好む層にアピールすることが舞台芸術の受容拡大に効果的ではないか、とする仮説が浮上した。

#### (4) 今後の改善点や対策

今回は、ほぼ計画通りの活動を行うことが出来た。余力があれば一般の方向けのアンケート調査も実施したいところであったが、スケジュールの余裕が乏しくなりウイルス感染リスクを抑制する必要もあったことから断念した。今後は感染対策を含め、もっと事前の準備を整えて、計画的に行えるように努めたい。

### 5. 地域への提言

SPACの公式サイトでは充実したコンテンツが揃っており、公式Twitterの更新頻度も高く、情報発信面では既に充分に行われていると考えられる。SPACと対比しうる活動が行われている他の道府県は少なく、静岡において地域の独自性を打ち出すことにより舞台芸術の振興を推進していく余地の大きいことが確かめられた。また、舞台芸術といえば東京の存在感は大きなものがあるが、SPACのスタッフへの聞き取り調査では、海外の舞台芸術の関係者との交流も積極的に行うなど、東京に追随する訳ではない方向性を目指していることを伺うことが出来た。東京とは異なる独自の振興路線を追求していくことは、静岡ならではの舞台芸術の振興を進めていく上でも重要なことではないかと考える。

舞台芸術公園は敷地面積が広く、豊かな自然に囲まれ、富士山の眺望も良いことから、舞台芸術のテーマパークとして発展していく潜在的な可能性は十分に秘めていると考えられる。しかし、アクセス性は決して良いとは言えず、バスの本数が少ないこと、駐車場の収容台数が多くないことは、利用者の拡大をはかる上でのネックになることは明らかである。スタッフへの聞き取りでは、演劇祭の開催時はシャトルバスを運行することで対応しているとの話を伺えたが、空き地を出来るだけ確保して臨時駐車場として使えるようにするといった対策は必要ではないかという意見が多く出た。

公演を見に来た観客を対象としたアンケートを実施したところ、参加者の満足度は概ね高く、静岡の文化水準の向上に貢献していることが分かった。ただし、これは良質な舞台芸術があれば足を運ぶことを厭わない、舞台芸術の鑑賞を趣味とする熱心な常連の観客層の感想であることに留意する必要がある。

学内でアンケートを実施したところ、SPACはもとより舞台芸術公園の場所も分からない学生が多数を占め、その活動内容に見合った知名度が得られていない実態も明らかになった。認知度や知名度の上昇は重要な課題である。小中高校生や演劇サークルがより利用しやすくする仕組みを整えること、口コミの増加を誘発できるような話題性のある情報発信を工夫することも重要ではないかと考える。

これらを踏まえ、テーマパークとしての発展を目指すための、以下のような提言を取りまとめた。

- ・舞台芸術公園をよく訪れる人は、舞台芸術が好きな常連さんが多い。まずは舞台芸術に関するイベント等の開催を増やし、常連さんのニーズに応える。
- ・情報発信で工夫を凝らして新たなファンを増やす。一案としては、若い世代の中でも舞台芸術と親和性が高いと考えられる、大道芸、映画鑑賞、音楽鑑賞、美術館巡り、カメラ・写真を好む層にアピールする。
- ・児童・生徒・学生が校外学習の機会を訪れる機会を増やして、子どもの頃から親しめるようにする。
- ・演劇やダンスサークルの稽古場や合宿場としての利用拡大をはかる。そのために必要な制度を整える。
- ・予算の許す限り、柵や手すりを設置するなどのバリアフリー対策を施す。駐車場の拡大も目指す。

### 6. 地域からの評価

研究成果の取りまとめが1月末までかかったため、2月時点では集計結果の速報を順次フィードバックしている状況で、地域からの評価をいただくのはまだこれからという段階である。引き続き高い関心を持っている学生もいて、今後も静岡における舞台芸術の振興について注目していきたいと考えている。